

## 今週（4月1日から4月5日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、1日の2Y発行や3日の法人税・年金保険料揚げにより当座預金残高が減少したことで、週初には390兆円台前半、週末の5日には380兆円台後半となった。無担保コールO/N物は、期初を迎えたものの取り上がるような動きは見られず、邦銀勢を中心に週を通して▲0.086～▲0.02%のレンジでの出会いで推移した。そうしたもとの、無担保コールO/N物加重平均レートは、▲0.06%台で推移した。ターム物に関しては、地銀業態を中心にショートターム物で▲0.04%近辺での出会いが散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは5日に2W物・15,000億円がオファーされ、5,131億円（期落ち額5,131億円）と札割れとなった。

### ●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.095～▲0.075%のレンジでの取引となった。週を通して投資家の売りが入り、レートはしっかりした展開であった。

SCは個別銘柄では5y133～138、10y334～354、20y164～167、30y57～61、40y11などのカレント銘柄近辺や、チーベスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、年度末の担保需要が剥落したことや、入札ラッシュによる需給悪化懸念から慎重姿勢が強まり軟調な展開となったものの、5日の3M物入札後はレート上昇に一服感が見られた。

3日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.180%で出会い始め、最終的に▲0.170%の出会いで引ける展開となる中、平均落札利回▲0.1628%、按分落札利回▲0.1497%と按分レートが流れる結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、新発3M物が▲0.150%での出会いと按分レート近辺で推移した。

5日の3M物入札は、WI取引において▲0.145%で出会い、▲0.145%の売り気配で前場引けとなる中、平均落札利回▲0.1444%、按分落札利回▲0.1400%とWI取引を反映して落ち着いた結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、新発3M物が▲0.170～▲0.150%の出会いが見られるなど、強含みで推移した。

### ●CP市場

今週のCP市場は、週間で1,900億円程度の償還に対して、9,500億円程度の発行と、発行超となった。一部に大型発行がみられたものの、全体としては案件数があまり膨らまず、閑散とした印象であった。発行残高については、3月末には、有利子負債削減の動きから15兆5,294億円程度に減少したものの、4日時点では17兆6,400億円程度まで回復した。発行レートは、0%から僅かなマイナス圏が中心で、市場残高が膨らまない中、投資家需要の根強さを窺わせる格好となった。発行頻度の高い銘柄は0%近傍で推移したのに対し、発行残高の少ない銘柄は深めのマイナスで買う動きも見られた。

2日には、CP等買入オペが1,500億円でオファーされた。平均落札レート▲0.001%・按分落札レート▲0.002%は、（前回按分▲0.005%・平均▲0.009%）と、マイナス幅が大幅に縮小する結果となった。今月のオファー額が、2013年4月の「量的・質的金融緩和」以降最小となる1,500億円に減額されたこともあって、市場の期待感が薄く、応札目線が上昇したためと見られる。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
4/1（月）	21,509.03	△ 0.085	111.08	△ 0.067	△ 0.085	3,923,300
4/2（火）	21,505.31	△ 0.055	111.35	△ 0.067	△ 0.085	3,904,800
4/3（水）	21,713.21	△ 0.055	111.47	△ 0.066	△ 0.081	3,886,000
4/4（木）	21,724.95	△ 0.043	111.49	△ 0.063	△ 0.089	3,898,800
4/5（金）	21,807.50	△ 0.035	111.77	△ 0.063	△ 0.094	3,896,000

## 来週（4月8日から4月12日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/8 (月)	日銀支店長会議 さくらレポート(=地域経済報告) 2月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 3月の消費動向調査(内閣府 14:00) 3月の景気ウォッチャー調査(内閣府)				2月の米製造業新規受注・出荷・在庫
4/9 (火)	2月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB6M 23,000億円 4/10発行	5Y 19,000億円 4/10発行		
4/10 (水)	第94回信託大会において黒田総裁講演 2月の機械受注統計(内閣府 8:50) 3月の企業物価指数(日銀 8:50)	交付税借入 10,500億円 4/19借入			ECB定例理事会(金融政策発表) 3月の米財政収支 3月の米消費者物価指数
4/11 (木)	3月のマネーストック(日銀 8:50)	流動性供給 5,000億円 4/12発行			3月の米生産者物価指数
4/12 (金)		TB3M 43,000億円 4/15発行	エネルギー 対策借入 8,500億円 4/22借入		4月のミシガン大消費者信頼感指数速報

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/8 (月)	700	▲ 2,000	▲ 1,300	全店共通 ETF買入 国債補完	▲ 5,100  300	5,100  100	400	▲ 900	TB3M発行▲43400償還39800
4/9 (火)	1,000	2,000	3,000				0	3,000	
4/10 (水)	0	▲ 19,000	▲ 19,000				0	▲ 19,000	TB6M発行▲19000償還23000 5Y発行▲23000
4/11 (木)	0	2,000	2,000				0	2,000	
4/12 (金)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000	CP買入		1,500	1,500	▲ 1,500	源泉税揚げ 国立大学法人運営費交付 流動性供給▲4000 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	700	▲ 19,000	▲ 18,300	—	▲ 4,800	6,700	1,900	▲ 16,400	

4/8は日銀予想、4/9以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、8日にTB3M、10日にTB6M、5Yの発行、12日に源泉税揚げなど不足日が多い週となる。積み期も終盤を迎え、着地に向けた調整での調達が増えることが見込まれるため、無担保コールO/N加重平均レートはやや上昇基調で推移することが予想される。レポ市場は、足元のGCは、積み終盤にかけて売物は引き続きしっかりと見込まれ、▲0.10～▲0.070%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、9日に6M物、12日に3M物の入札が実施予定となっている。入札ラッシュが続く中、需給環境の影響が注目される。CP市場は、事業法人の資金需要が強いなか、発行残高がどれだけ回復するかが注目される。また、9日には、CP等買入オペが1,500億円予定されている。

主要なイベントとしては、海外では10日にECB定例理事会、3月の米国CPIが予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入